

「考え、話し合い、学び合う学習」の学び合う学習の要素について

○「考え、話し合い、学び合う学習」の要点

学びの具体像（イメージ）

社会科の例

<p>自分や集団の考えを発展させ、共に実践に参加すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当初の個人的な考えが、相互のかかわり合いを通して、再構築され、納得されながら広がり、次第に質の高いみんなの考えに仕立てあがっていく。このようにして、納得が共有されると、一気に実践に向かうようになる。【提案したり、実践することができる】 	<ul style="list-style-type: none"> ・移転するならどこがよいかを提案できる
<p>他者と相互にかかわること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学び合う授業での子供は、よく他者とかかわる。お互いの考えに耳を傾け合い、考えを確かめ合って探究している。こうした学びでは、思考がよく可視化されている。→「考え、話し合い、学び合う学習」では、思考ツールを活用【説明ができたり、知識をもとにやってみることができる。考えたことを言葉にして伝え合うことができる】 	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜそこにあるかを説明できる
<p>自己との対話を重ねること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や自分の考えを持ち、自分で自分自身を見つめたり見つめ直したりする。また、他者とかかわることによって、自分で自分自身や自分の考えを吟味し、確信したり再構築したりする。すなわち、自分がもう一人の自分と対話する。 ・自分がもう一人の自分と対話する。自分自身の学びの深化や自分自身の成長を実感すること。【知っていたり、やってみることができる。知っている自分、知らなかった自分、知ろうとしている自分などを感じる】 	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県庁所在地の名称と位置を調べられる